

平成22年小野町議会第2回定例会

議事日程 (第3号)

平成22年6月17日 (木曜日) 午後6時開議

日程第 1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員 (12名)

1番	宇佐見	留男	議員	2番	水野	正廣	議員
3番	国分	喜正	議員	4番	石戸	浩	議員
5番	遠藤	英信	議員	6番	村上	昭正	議員
7番	久野	峻	議員	8番	鈴木	忠幸	議員
9番	會田	隆壽	議員	10番	西牧	さかり	議員
11番	橋本	健	議員	13番	佐藤	登	議員

欠席議員 (2名)

12番	吉田	鐵雄	議員	14番	大和田	昭	議員
-----	----	----	----	-----	-----	---	----

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長	宍戸良三	教育長	矢内今朝見
総務課長	駒木根祐治	企画商工課長	鈴木澄夫
税務課長	渡辺慶一	町民生活課長	村上春吉
健康福祉課長	藤井義仁	農林振興課長 兼農業委員会 事務局長	石井一一
地域整備課長	佐藤喜春	会計管理者 兼出納室長	仲野谷博
教育課長	先崎幸雄	施設整備室長	吉田浩祥

職務のため出席した者の職氏名

事務局長	宗像利男	書記	先崎実
書記	矢吹美加	書記	根本慶一
書記	新田徹	書記	照山真

開議 午後 6時00分

◎開議の宣告

○副議長（佐藤 登君） 大和田昭議長の体調不良により、議長を交代いたします。

ただいまから、平成22年小野町議会第2回定例会第3日目の本会議を開会いたします。

ただいま出席している議員は12名で定足数に達しており、会議は成立いたしました。

なお、吉田鐵雄議員、大和田昭議長より、病気療養のため、先崎福夫代表監査委員より所用のため、それぞれ本日の会議を欠席する旨、届け出がありましたので、報告いたします。また、吉田鐵雄議員より本日の一般質問の通告を取り下げる旨、申し出がありましたので、報告いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

◎議事日程の報告

○副議長（佐藤 登君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎一般質問

○副議長（佐藤 登君） 日程第1、一般質問を行います。

第2日目に引き続き、通告による質問を順次許します。

◇ 国 分 喜 正 君

○副議長（佐藤 登君） 初めに、3番、国分喜正君の発言を許します。

3番、国分喜正君。

〔3番 国分喜正君登壇〕

○3番（国分喜正君） 議長のお許しが出たので、これより一般質問させていただきます。この春3月29日と4月5日の2週にわたりNHKテレビ鶴瓶の家族に乾杯で当町が全国放映されました。もちろん当町の多くの方がご覧になったと思いますが私もその番組を見て大変感動しました。それは小野町といいますと過去のNHK全国放映では集団赤痢だったり選挙違反だったり暗い思い出しかなかったからです。それが今回すばらしい夏井の千本桜が出てきたり、我が町の唯一の高等学校、小野高の弓道部が紹介されたり、日本にただ一つしかないリカちゃんキャッスル、そしておいしい食べ物などが次々と映し出され、見ていて胸がわくわくするほどうれしく思えたからです。それは、小野町から全国に情報を発信しているのがとてもすばらしいことだからです。

そのときばかりは、小野町に生まれて本当によかったと思いました。後日、九州や四国の友達から「テレビ見たよ」「小野町も変わったな」との電話をもらい、またうれしくもなりました。

鶴瓶と志村けんが小野町に来た、おもしろかった、それだけで終わるのでなく、ここにまちおこしのヒントがあるように思えてならないのは、私だけではないように思いますが、いかがでしょうか。

鶴瓶と志村けんが小野小町に会いに来たと言っていました、当町にも初代小町から2代目、3代目小野小町というように、代々の小町がいてもおかしくないと思いますが、いかがでしょうか。今から美女伝説の歴史をつくっていくのです。

過去には商工会でミス小町を選んだ時期もありましたが、毎年ともなるとなかなか人選が大変だったと聞き及んでおります。そこで、毎年ではきつければ3年とか5年ごとに小町を選ぶとか、観光協会や商工会と協力して、認定証のみで継承していく方法など考慮の余地があるかと思えます。あるいは鶴瓶の探した小町を初代小野小町にするにも一つの選択肢かと考えます。

夏井の千本桜も数十年の月日を重ねて今日があるように、初代小町、何代目小野小町と小町美人を代々継承していくところによそではまねのできない価値と伝説が生まれるように思えます。今から小野小町美女伝説づくりを始めてみてはいかがか、お尋ねいたします。

○副議長（佐藤 登君） 宍戸町長。

〔町長 宍戸良三君登壇〕

○町長（宍戸良三君） 3番、国分喜正議員のご質問にお答えをいたします。

NHK番組の「鶴瓶の家族に乾杯」での放映は、私もわくわくしながら喜んで見ておりましたが、出演された町民の方々がどなたも生き生きと笑顔いっぱいだったのがとても印象的でありました。

番組に取り上げるきっかけとなりました小野小町の生誕伝説は、町民の方々の自慢であり、また観光振興などの面からも大切な財産と思えます。伝説にまつわる史跡の保存、町内外に向けたPRなど、伝説の継承に努力されてこられた各方面の皆様改めて感謝を申し上げたいと思えます。

これからの取り組みといたしましては、第一には小野小町生誕伝説を確実に後世に伝えていくことや、地域の方々に発信していくことが重要と考えております。

今後はご提案の内容も踏まえまして、観光協会を初めとする各関係機関の皆様ともご相談をしながら、小野小町生誕伝説の継承や、伝説による観光の振興、情報発信などを図るための施策の実施につきまして、皆様と検討してまいりたいと考えております。

○副議長（佐藤 登君） 国分喜正議員。

〔3番 国分喜正君登壇〕

○3番（国分喜正君） 続いて、当町から全国へ情報を発信している企業にリカちゃんキャッスルがあります。

オープン当時は福島空港を利用して、九州からはるばるオリジナルのリカちゃん人形をたった1個買いに来た女の子がいたということを知り、情報とはすごい、リカちゃんとはすごいなどその当時感心したものでした。今でも年間十数万人もの人たちが訪れるリカちゃんキャッスルですが、その内部の案内板などに小野小町や夏井の千本桜の写真などを提示してもらったり、あるいはリカちゃん小野町を結びつける新たな観光やまちおこし策が重要かと思えますが、これについてはいかがお考えなのか、お尋ねいたします。

○副議長（佐藤 登君） 宍戸町長。

○町長（宍戸良三君） お答えをいたします。

平成5年にリカちゃんキャッスルがオープンいたしまして早くも17年が経過いたしました。同施設には現在も県内外から大勢のファンの方が訪れています。町といたしましても、重要な観光資源と考えておりまして、積極的に活用を図ってきたところであります。

これまでにリカちゃんをまちおこしプリンセスに任命、近くを走る町道をリカちゃん通りと命名するとともに、通りにかかる橋にリカちゃんとお野小町のブロンズ像を設置するなど、リカちゃんキャッスルとタイアップした観光振興、情報発信策を行ってきたところであります。

また、近年ではリカちゃんキャッスルなどにご協力をいただき、年末年始にリカちゃん通りにイルミネーションを実施してきたところであります。リカちゃんは、小さいお子さんや、またリカちゃんです遊んだ経験のあるお母さん方を中心に今なお絶大な人気を継続しております。地域を問わず、全国的に有名なリカちゃんを活用した各種の施策は、観光、商業など各方面のまちづくりに限りない可能性があると思いますので、引き続きリカちゃんキャッスルと連携をしながら、観光協会など関係機関と協力しタイアップ事業等を行ってまいりたいと考えます。

○副議長（佐藤 登君） 3番、国分喜正議員。

〔3番 国分喜正君登壇〕

○3番（国分喜正君） 次に、当町には皆さんのよくご存じの元農大教授の小泉武夫さんや、歯のレーザー治療では世界の松本と言われた元昭和大学歯学部教授の松本光吉さんのように、探せばいろいろな分野で活躍し、または活躍している立派な方が当町出身でおられます。このような方々にご協力いただいて、小野町をPRしていただく、あるいはまちおこしのヒントをいただくなどのアドバイザーの選択肢もあろうかと思いますが、いかがお考えかお尋ねいたします。

○副議長（佐藤 登君） 宍戸町長。

○町長（宍戸良三君） お答えをいたします。

議員のご発言のように、当町の出身者には、小泉武夫先生を初めとし、各分野でご活躍されている方々が数多くいらっしゃいます。ふるさとを小野町に持つ方々からのご支援、ご助言を賜ることは、まちづくり策を講じるに当たりましてとても貴重であり、非常に心強いものであります。これまでも各種講演会の開催に際しましては、快く講師をお引き受けいただいたり、折に触れて小野町のPRやご助言をいただけてきました。ふるさと小野町会の皆様を初め、当町ゆかりの方々には率先してふるさと納税やご支援を賜り、深く感謝をしているところであります。

町といたしましては、ご出身の方々のますますのご活躍をご祈念すると同時に、今後いろいろな形で連携を図っていききたいと考えます。

また、ふるさと小野町会のさらなる進展を願ひまして、新たな展開も検討してまいりたいとそのように考えます。

○副議長（佐藤 登君） 3番、国分喜正議員。

〔3番 国分喜正君登壇〕

○3番（国分喜正君） 宝物ありがとう、思い出届きました、小野町に来て、生まれて、本当によかったと思えるようなまちおこしをして、郷土を愛する町民が1人でも多くなることを心より願い、次の質問に移ります。

昨今の新聞等に高校生の授業脱落4人に1人という記事が載っておりましたが、つまり高校生の4人に1人が、授業が難しくついていけないと感じていることが全国高等学校PTA連合会の調査でわかりました。また、小学生時代から脱落し続けている生徒も目立ち、授業をよく理解できていない生徒が予想以上に多いことも判明しました。

一方、高校に進学して授業についていけなくなった時期は1年生が最も多く、早い段階でついていけなくなったまま難しいと思うまま高校に通う子供たちが多いことも調査で浮き彫りになりました。これらの問題点については、当町においても同様かと思われ、まことにゆゆしきことだと思います。これらを解決するには、基礎学力の向上はもちろん、小学校でのきめ細かい指導に加え、つまずいた子も勉強をやり直せる仕組みづくりが大切かと思われます。

そこで、6年前、宍戸町長初当選したときの就任あいさつの記事が小野町広報に載っておりまして、その記事の中で、子供たちがのびのびと教育を受け、学力でもスポーツでも県内トップのレベルになるように前向きに取り組んでいきたいとその記事を当時読みまして、その町長のやる気と、その熱い胸の内を思い、思わず感動したのを数か月前のこのように思い出されます。以来6年がたちましたが、今でもその気持ちに変わりがないかどうか、特に学力向上についてどのようなお考えかお尋ねいたします。

○副議長（佐藤 登君） 宍戸町長。

○町長（宍戸良三君） お答えをいたします。

教育目標に関する考え方に対するお尋ねであります。少子高齢化が進む中にありまして、小野町の将来のまちづくりを考えた場合、何といたしましても人づくりはまちづくりにつながる大変重要なものであると理解をしております。6年前にも申し上げましたが、小野町の子供たちが学力においても、スポーツにおいても、県内でトップレベルになることが私を初め町民全員の願いであると思っております。

小野町、そして日本の将来を左右する子供たちに最良の教育環境を提供することはもちろんであります。社会生活を送る上でも基本となる学力、体力の向上などの教育振興施策に重点的に取り組み、豊かな人間性とたくましく生きる力を備えた健康で元気な子供を育成する教育を目指していきたいと考えております。

○副議長（佐藤 登君） 3番、国分喜正議員。

〔3番 国分喜正君登壇〕

○3番（国分喜正君） 今ほど町長の思いをお聞きしましたが、次に、このたび新しく就任された矢内教育長にお尋ねいたします。

1980年度に始まったゆとり教育の路線化、そして2002年度から実質的な実施、つまり学習内容や授業時間の削減と完全学校5日制、それに総合的学習時間の新設などを加えたゆとり教育が実質的に実施されたわけですが、なかなか成果が出ないままに学力の低下も続き、2008年には文科省が大きくかじを切り、新しく来年度実施に向けスタートいたしました小学校教科書も、ただいま教育委員会で教科書選定作業を行っている最中とお聞きますが、従来と違ってページ数も大幅に増加して、限られた授業時間でいかに指導するか、今から教育現場の混乱が予想され、さらに分厚くなった教科書を見て、子供たちが戸惑う姿も予測されます。

このような教育の環境の中で、変化はチャンスととらえ、町長の思いを具現化すべく、今後どのような施策をとられるか、その心意気をお伺いいたします。

○副議長（佐藤 登君） 矢内教育長。

○教育長（矢内今朝見君） 3番、国分喜正議員のご質問にお答えいたします。

町長の教育に対する思いをいかに具現化していくのかとのご質問ですが、町長が先ほど申し上げた教育に対する熱い思いに私も全く同感でございます。小野町の子供たちが県内のトップレベルを目指して学習やスポーツに励むことができるように環境を整備することが教育行政の役割であると考えております。同時に、私たち大人の存在が子供たちにとっての重要な教育環境であり、私たち大人が目標を高く持ち、その実現に努力する姿勢を子供たちに示すことが大切であると考えております。

今後の施策につきましては、昨日の6番、村上昭正議員の一般質問でもお答えいたしましたが、安全・安心に子育てができる教育環境の整備、充実を図ることはもちろんであります。特に児童生徒が夢や希望を持つて学校づくり、そしてその夢や希望の実現に向かって努力できる学校づくりを推進してまいりたいと考えております。

○副議長（佐藤 登君） 3番、国分喜正議員。

〔3番 国分喜正君登壇〕

○3番（国分喜正君） ただいま新教育長のこれからの基本理念についてお伺いいたしましたが、昨年9月議会で全国一斉学力テストの結果について質問させていただきました。そのとき中学生では県内レベルで中の上のことでした。教育は結果が出るまで時間がかかるとお聞きしていますが、昨年は大阪府が教育非常事態宣言をしてこ入れた結果、小学生の成績が上がったという事例もあるように、当町も県内レベルで中の上から上位を目指すには、何らかの方法があるかと存じます。

先ほどの繰り返しになりますが、教育には時間がかかります。しかし、未来を担う子供たちの成長は一刻たりとも待ってられません。今後どのような方針で学力向上を図っていかれるのかお尋ねいたします。

○副議長（佐藤 登君） 宍戸町長。

○町長（宍戸良三君） 学力向上策に関するご質問でありますので、教育長に答弁をいたさせます。

○副議長（佐藤 登君） 矢内教育長。

○教育長（矢内今朝見君） 学力向上策への取り組みについてであります。学問に王道なしと言われるように、学力を向上させるには課題を一つ一つ解決し、地道に努力を重ねることが大切であると考えます。これまで、町内の各小中学校におきましては、授業研究会を計画的に実施して、授業の改善、充実に取り組むとともに、昼休みや放課後等を活用して個別指導に取り組むなどの努力を積み重ねてきました。その結果、学力が年々向上しており、その成果が標準学力診断テストや全国学力学習状況調査結果にも表れてきております。

なお、さらなる学力向上を目指し、各小中学校において努力したいと考えておりますことは、第一に児童生徒の学習意欲を高め、一人一人の児童生徒が主体的に、そして真剣に授業に取り組めるようにすることです。そのためには、何よりも児童生徒を大切に、児童生徒の興味や関心に応じたわかりやすい授業を展開するなど、各学校の教育活動の一層の改善、充実努力を怠りたくないと考えております。

また、児童生徒が学校で学んだ内容を確実に定着させるには、家に帰ってから復習や発展的な学習を行うな

ど、家庭学習に継続的に取り組むことが必要であります。そうした家庭学習の習慣を小学校低学年から身につけられるよう、家庭、学校、そして地域全体が連携して取り組む施策を講じてまいりたいと考えております。

○副議長（佐藤 登君） 3番、国分喜正議員。

〔3番 国分喜正君登壇〕

○3番（国分喜正君） 最後になりますが、当町にとって子供は宝です。未来の小野町を動かす原動力です。その子供たちが基礎学力をしっかりとつけ、有名校、有名大学に余裕を持ってどんどん進学できるよう、教育長にはさらなるご尽力をお願いして質問を終わります。

◇ 遠藤英信君

○副議長（佐藤 登君） 次に、5番、遠藤英信議員の発言を許します。

5番、遠藤英信議員。

〔5番 遠藤英信君登壇〕

○5番（遠藤英信君） 議長より発言の許可を得ましたので、一般質問をいたします。

平成21年度に第4次小野町振興計画を策定し、基本理念に町の人々、自然環境、文化、歴史すべてを大切にだれもが快適に暮らすことができるまちづくりを目指し、町の将来像を「きらめく人と自然、あったか小野町」と掲げました。第3章基本構想の基本理念の第1では、住民が主役となっています。まちづくりの主役は、住民です。これまで培ってきた、または築いてきた地域の歴史や文化、一人一人の知恵や経験、功績を大切に、人と人との触れ合いや支え合いを通して、だれもが輝けるまちづくりを進めます。そして、住民と行政の協働により、住民の視点に立った行財政運営を進めるとあります。

そこで、住民が主役であり、町民一人一人の知恵や経験などを大切に、町民の皆さんが参画と協働によって小野町将来像「きらめく自然、あったか小野町」を目指すためにも、男女共同参画社会の取り組みが不可欠であると思います。

そこで、男女共同参画社会についてお尋ねをいたします。

平成11年6月に男女共同参画社会基本法が制定されました。この法律によれば、日本国憲法に個人の尊重と法のもとの平等がうたわれ、男女平等の実現に向けたさまざまな取り組みが国際社会と連動しつつ、着実に進めるため、なお一層の努力が必要とされています。

一方、少子高齢化の進展、国内経済活動の成熟化等、我が国の社会経済情勢の急激な変化に対応していく上で男女が互いにその人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現は、緊急の課題となっている。

21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置づけ、社会のあらゆる分野において男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の推進を図ることが重要であるとあり、さらに男女共同参画社会の形成について基本理念を明らかにして、その方向を示し、将来に向かって、国、地方公共団体は総合的かつ計画的に推進することになっています。男女共同参画社会についてどのようにお考えなのかお伺いをいたします。

○副議長（佐藤 登君） 宍戸町長。

〔町長 宍戸良三君登壇〕

○町長（宍戸良三君） 5番、遠藤英信議員のご質問にお答えをいたします。

女性と男性が社会の対等な構成員として、みずからの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、そのことによって男女が平等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつともに責任を担うべき社会であるべきとの考えは、私も同感であります。

そうした社会の実現のため、社会的、文化的につくられた性別の概念から解放され、自分らしい生き方ができる社会が構築されつつあるとも考えています。

そのような中で、本来のそれぞれの性の持つ母性、父性という本質的な部分や役割分担についても尊重しなければならぬと感じております。今後とも男女平等の社会の構築が望まれるべきだと私も思います。

○副議長（佐藤 登君） 遠藤英信議員。

〔5番 遠藤英信君登壇〕

○5番（遠藤英信君） 続きまして、それでは小野町における男女共同参画について、女性の意思決定機関の参画状況についてどのようになっているのかをお伺いしたいと思います。

○副議長（佐藤 登君） 宍戸町長。

○町長（宍戸良三君） お答えをいたします。

現時点での町の各種委員会における女性の方の割合ですが、地方自治法の定めにより置かなければならない委員につきましては10.7%、附属機関の委員につきましては16.7%の構成率となっております。

私は、基本的に男性、女性にかかわらず、最適の方を適所に配する、そういう方向性でお願いをしてきたところであります。男女が平等な社会を実現していくために、性別を問わず町民一人一人が家庭や職場、地域のさまざまな領域で互いに責任を果たし、相互の協力のもと、みずからの決定による生き方が可能となるような条件づくりに心がけ、今後機会をとらえてPRに努めてまいりたいと考えています。

○副議長（佐藤 登君） 5番、遠藤英信議員。

〔5番 遠藤英信君登壇〕

○5番（遠藤英信君） それでは、第3点目の質問をいたします。

男女共同参画社会の推進についてであります。平成21年4月1日現在で、福島県の男女共同参画社会に関する条例化したのは13市町村であり、男女共同参画に関する計画は23市町村であります。小野町でも男女共同参画社会について、条例化の策定の検討をするなど早急に対応すべきと思うのでありますが、どのようにお考えなのかお伺いしたいと思います。

○副議長（佐藤 登君） 宍戸町長。

○町長（宍戸良三君） お答えをいたします。

お尋ねの男女共同参画基本計画につきましては、現在まだ策定をいたしておりませんが、策定に向け、福島県等と調整を現在行っているところであります。

また、先ほども申し上げましたように、性別を問わず町民一人一人が家庭や職場、地域のさまざまな領域で相互協力のもと、みずからの決定による生き方が可能となるような社会の実現をくどくなりますが目指し

ていきたいと思いをします。

○副議長（佐藤 登君） 5番、遠藤英信議員。

〔5番 遠藤英信君登壇〕

○5番（遠藤英信君） 今、町長から男女共同参画社会についてご答弁をいただきました。現状を考えると、これからの最重要課題であるというふうに思っております。みんなで支え合う男女共同参画社会について、私たちにできることは、家庭では男女が共に家事、育児、介護などに参画し、喜びも責任も分かち合うこと、2つ目に、職場では男女が対等に方針決定の場に参画し、個性や能力を発揮できる機会をつくること、3つ目に、学校では家事や育児などの成長期に合わせた体験学習を進め、社会の一員として協力し合う態度を育てること、地域社会では男女が対等に地域の企画や方針決定の場に加わり、暮らしやすい環境づくりを進めることなどがあります。これらのことを性別や世代を超えて、だれもが自分らしく生き生きと暮らせる男女共同参画のまちづくりに町民の皆さんへ理解と協力を求めることではないでしょうか。小野町男女共同参画推進条例や小野町男女共同参画プランなど策定を強く望みます。

次に、2010年国民読書年についてお尋ねをいたします。

2010年は国民読書年として、活字離れに歯どめをかけようと「じゃあ、読もう」とキャッチフレーズを定め、子供や社会人の読書推進を目指すことになっています。2010年国民読書年についてどのようにお考えなのかをお伺いいたします。

○副議長（佐藤 登君） 宍戸町長。

○町長（宍戸良三君） お答えをいたします。

2010年国民読書年についてのご質問ですが、平成20年6月の国会決議により、2010年は国民読書年と定められ、読書活動について国を挙げてさらに推進していこうとするものであります。私も読書活動は重要であり、大切なことだと考えております。

当町の読書活動につきましては、文化の館図書館を中心に教育委員会と一緒に幅広く積極的に取り組んでいます。町民の方々のさらなる読書活動推進に寄与できるよう、関係機関、各種団体と連携して、さらに充実してまいりたいと考えます。

○副議長（佐藤 登君） 5番、遠藤英信議員。

〔5番 遠藤英信君登壇〕

○5番（遠藤英信君） 国民読書年についての2つ目ですが、福島県教育委員会は国民読書年に当たり、活字離れを防ぐために子供読書活動推進計画を早急に取りまとめるように促しています。小野町ではまだ策定されていないのではないかと思います。いつごろまでに策定されるのかお伺いをいたします。

○副議長（佐藤 登君） 宍戸町長。

○町長（宍戸良三君） 子供読書活動推進計画に関するご質問でございますので、教育長に答弁をいたさせます。

○副議長（佐藤 登君） 矢内教育長。

○教育長（矢内今朝見君） 5番、遠藤英信議員のご質問にお答えいたします。

子供が自主的に読書を楽しむことができるよう、当町におきましても文化の館図書館を中心に各学校や幼児教育施設と連携を図り、子供たちの読書環境の充実や読書活動の推進を図ってまいりました。子供読書活動推

進計画につきましては、現在全体的な調整を進めておりますので、今年度中に策定したいと考えております。

○副議長（佐藤 登君） 5番、遠藤英信議員。

〔5番 遠藤英信君登壇〕

○5番（遠藤英信君） 今、教育長から、ふるさと文化の館についてお話がありましたが、小野町ふるさと文化の館図書館についてご質問をいたします。

このふるさと文化の館の図書館の蔵書整備、そして利用状況がどのようにされているのかを伺います。

また先日、小野町ふるさと文化の館図書館に行きまして、図書館内部を見てまいりました。蔵書の整理、分類など立派に行き届いていることに驚きました。町民の皆さんが幅広く利用するためには、各種団体や各学校など連携を図りながら利用推進して、全世帯、全町民、図書利用メンバーに登録するなど、読書活動普及にすべきだと思います。このままではもったいないような気がします。今後の対応策についてどのように考えているのかをお伺いします。

○副議長（佐藤 登君） 宍戸町長。

○町長（宍戸良三君） 文化の館図書館についてのご質問でありますので、教育長に答弁をいたさせます。

○副議長（佐藤 登君） 矢内教育長。

○教育長（矢内今朝見君） 議員ご発言のとおり、我が町の文化の館図書館は、読書活動や利用状況におきまして、他市町村に誇れる図書館であると考えております。蔵書につきましては、町民の皆様のご要望にこたえるよう、計画的に整備を進めております。

今後より多くの町民の皆様に気軽にご利用いただけるよう、各種行事等の開催やPRに努めるとともに、各種団体、各学校と連携を図りながら、広く町民の皆様の読書活動普及に努力してまいりたいと考えております。

なお、図書館の利用状況等につきましては、教育課長に説明いたさせます。

○副議長（佐藤 登君） 先崎教育課長。

○教育課長（先崎幸雄君） 5番、遠藤英信議員のご質問にお答えいたします。

平成21年度図書館の利用状況であります。利用者数3万9,441人、その内訳でございますが、中学生以下1万1,796人、高校・一般2万7,645人、貸し出し点数4万3,298点、登録者数5,321人、このうち小中学生登録者数856人となっております。

次に、総資料点数でございますが、図書資料8万2,258冊、雑誌2,948冊、視聴覚資料、ビデオ、CD、DVD2,835点、総資料点数が8万8,041点となっております。

○副議長（佐藤 登君） 5番、遠藤英信議員。

〔5番 遠藤英信君登壇〕

○5番（遠藤英信君） 次に、学校図書について伺いたしたいと思います。

学校図書館図書標準が平成5年に定められて、地方交付税措置が講じられていますが、小野町における学校図書整備はどのようになっているのか、状況をお伺いしたいと思います。

なお、今後の学校図書の充実についてもどのように考えているのかも伺いをしたいと思います。

○副議長（佐藤 登君） 宍戸町長。

○町長（宍戸良三君） 学校図書に関するご質問でありますので、教育長に答弁をいたさせます。

○副議長（佐藤 登君） 矢内教育長。

○教育長（矢内今朝見君） 小野町における学校図書の整備についてであります。町内の小中学校におきましても、学校図書館図書標準に沿って図書の整備を進めております。現在町内6校のうち5校が学校図書館図書標準を満たしており、標準に達していない1校につきましては、計画的に整備を進めているところであります。

今後の学校図書の充実につきましては、読書活動は児童生徒が言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で、欠かすことのできないものでありますので、引き続き計画的に学校図書の充実を図らねばならないと考えております。

○副議長（佐藤 登君） 5番、遠藤英信議員。

〔5番 遠藤英信君登壇〕

○5番（遠藤英信君） 次に、2010年国民読書年に当たり、読書と国語力、漢字力のことについてお尋ねをいたします。

国語力を身につけるためには、読書の重要性が指摘されています。読書は人類が獲得した文化である、読書により我々は楽しく知識が付き、物を考えることができる、読書離れが叫ばれて久しい情報化社会の進展は、自分でものを考えず、断片的な情報を受け取る受身の姿勢を人々にもたらしやすい、自分でもものを考える必要があるからこそ、読書が一層重要になるのであります。

また、漢字力低下要因は、パソコンなどの普及による漢字を書く行為のデジタルとも言われています。漢字が書けなくなった大人85%の調査結果がなされております。子供世代の過半数は、わからない漢字は両親に聞くと考えています。親は漢字がわかるものという子供に期待されています。これらのことから、今、児童生徒の国語力、漢字力の向上は大変重要な課題といえるのではないかと思いますのであります。

各学校児童生徒の国語力、漢字力と読書について現状認識とこれからの国語力、漢字力を身につける読書活動推進の取り組み、対応についてどのように考えているのかをお伺いします。

○副議長（佐藤 登君） 宍戸町長。

○町長（宍戸良三君） 国語、漢字等、教育内容に関するご質問でありますので、教育長に答弁をいたさせます。

○副議長（佐藤 登君） 矢内教育長。

○教育長（矢内今朝見君） 初めに、学校教育における国語力、漢字力についてであります。町内の小中学校で毎年実施しております標準学力診断テストの国語科の結果等から、国語力、漢字力ともに学年ごとで多少の違いはあるものの、おおむね全国平均を上回る状況にあると認識しております。

次に、町内小中学校における読書の現状についてであります。すべての小中学校で朝の読書や休み時間の自由読書を行っております。また、各小学校におきましては、ふるさと文化の館と連携しながら、読み聞かせや本の紹介をするブックトークを計画的に行うなど、各学校で読書活動に積極的に取り組んでいると認識しております。

読書活動につきましては、国語力や漢字力の育成はもちろんのこと、人生をより豊かにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠かすことができない重要なものと考えておりますので、文化の館との連携を深め、学校図書館のさらなる充実と読書活動の推進を図ってまいりたいと考えております。

○副議長（佐藤 登君） 5番、遠藤英信議員。

〔5番 遠藤英信君登壇〕

○5番（遠藤英信君） 矢内教育長においては、今日までの教育関係の抱負な経験により斬新なアイデアやユニークな発想と指導力を持って学校図書の実、読書活動の推進、そして国語力、漢字力の向上についてご尽力をいただき、すばらしい成果が上げられますようにご期待を申し上げます。

次に、LED環境照明の導入についてお伺いをいたします。

平成22年2月、小野町地域新エネルギービジョンが策定されました。また、第4次小野町振興計画でも快適環境を創造し、ともに助け合うまちづくりを基本目標に二酸化炭素の削減を図り、地球温暖化を防止するための取り組みをすることになっています。LED照明はエコロジーであり、省エネ、電気料金3分の1、CO₂排出量60%削減、廃棄時にもリサイクルが可能、さらにLED照明は長寿命であり、LED蛍光灯は4万時間であり、従来の約3倍から6倍です。そして、LED照明は安心・安全であること、低熱発量で30度以下、有害物質ゼロ、アクリル製で地震のときも安全だと、人の目にやさしい、そして虫が寄りつかないなど、どれをとっても次世代エコ照明であり、省エネ、省コスト、CO₂削減に最適ではないかと思ひます。

環境照明LEDの公共施設や街路灯に導入されてはと思ひますが、どのようにお考えなのかをお伺ひいたします。

○副議長（佐藤 登君） 宍戸町長。

○町長（宍戸良三君） お答えをいたします。

議員ご発言のように、LED照明は近年急速に普及をしてきているところであります。長寿命、低消費電力、小型化など、従来の白熱電球、蛍光ランプに比べ多くのメリットがある画期的な照明材料であるとの認識を持っております。

ご提案の公共施設、街路灯へのLED照明の導入についてであります。街路灯につきましては、街路灯協議会におきまして導入を検討したところ、現在の街路灯をLED照明にする場合には、器具の交換が必要となることから、多額の経費を要するため、導入は見送ったとのお話を聞いております。

また、公共施設への導入につきましては、現時点では具体的な導入計画を持ってはおりませんが、先ほど来からの二酸化炭素の排出量削減、電気料金の低減など、いろいろな面から将来においては、積極的に導入すべき時期がやってくると思ひます。費用対効果などについて注視、検証をしながら将来的な導入に向けての検討を行ってまいりたいと思ひます。

○副議長（佐藤 登君） 5番、遠藤英信議員。

〔5番 遠藤英信君登壇〕

○5番（遠藤英信君） 今、町長がお答えになりました二酸化炭素の削減についても考えているようであります。第4次小野町振興計画や小野町地域新エネルギービジョンなどにもあります二酸化炭素削減、地球温暖化防止の対策に最適な施策と思ひますので、早急に環境照明LEDの導入促進のための検討をされるようにご要望申し上げます、私からの質問を終わります。

○副議長（佐藤 登君） これをもって通告者全員の一般質問を終わります。

◎散会の宣告

○副議長（佐藤 登君） さて、傍聴者の皆様方には夜分遅くまで大変ご苦労さまでした。

小野町議会として、昨年に引き続き2回目の試みとなりました夜間議会でありましたが、議会、町、執行部は今後も町政進展のため努力してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

以上をもって本日の会議の日程は全部終了いたしました。

本日の会議はこれをもって散会いたします。

散会 午後 6時52分